

りんご



主な加害種：カラス、ヒヨドリ、サル、ハクビシン、アライグマ

りんごを加害するのは鳥類では主にカラス類であるが、ヒヨドリやオナガなども加害する。ハシブトガラスの場合は大きなくちばしの跡が特徴だが、判別が難しい場合もあるので注意。獣類では、サルをはじめ、ハクビシン、アライグマ、タヌキ、アナグマなどの中型獣が加害する。イノシシ、クマが枝を折る被害、シカが樹皮を食べる被害もある。



加害種：ハシブトガラス

飼育個体での摂食実験時の写真。ハシブトガラスの大きなくちばしでついばんだ痕がわかる。一ロー口が大きいことが多い。

撮影：吉田



加害種：ハシボソガラス

飼育個体での摂食実験時の写真。ハシボソガラスの細いくちばしで何度も細かくついばんだ痕がわかる。

撮影：吉田



加害種: ハシブトガラス

飼育個体での摂食実験時の写真。ハシブトガラスでもこのようなハシボソガラスに似た食痕をつける個体がいるので、明瞭な太いV字型が見られない場合は加害鳥種の判別は難しい。

撮影: 吉田



加害種: 不明(中型獣?)

りんご園の地面にかじり跡のある果実が落ちていた。この圃場ではツキノワグマ、アナグマ、キツネ、タヌキなどのりんごを食害する複数の動物がカメラ調査で確認されている。写真のりんごは、右側の果皮の形状を見ると、比較的小さな門歯で齧り取られた形跡があり、中型獣による食痕の可能性はある。

撮影: 石川



加害種: 不明(ツキノワグマ?)

りんご園の地面にかじり跡のある果実が落ちていた。この圃場ではツキノワグマ、アナグマ、キツネ、タヌキなどのりんごを食害する複数の動物がカメラ調査で確認されている。この食痕は比較的大きめの歯の痕がみられ、ツキノワグマの可能性もあるが、食痕からの加害獣の特定は困難。

撮影: 石川



加害種: アナグマ

りんご園の外周に設置されたワイヤーメッシュ柵の地際が 20cm くらい掘られている。穴掘り能力の高いアナグマが土を掘り、キツネやタヌキなどの多様な中型獣もくぐり抜けて園内へ侵入する経路として利用する。

撮影: 石川



＜参考＞ツキノワグマ

りんご園の地面に糞が落ちていた。ツキノワグマの糞は食べたものがあまり消化されていないように見える状態で排出され、特定の食べ物に集中した構成になりやすい傾向がある。この糞はほぼ 100% がりんごで、すりおろしりんごのような状態になっている。

撮影: 石川



加害種: ツキノワグマ

りんご園に「クマ棚」のある樹があった。ツキノワグマは木に登って採食する際、枝先までは登れないため、果実のついた枝を枝ごとたぐり寄せて、枝先の果実を食べる習性がある。その際に折れた枝が樹上に残って積み重なり、鳥の巣のようになったものが「クマ棚」と呼ばれる。この樹は樹高約 4m で、地上から約 2m の高さの位置に「クマ棚」ができていた。枝ごと折られると被害が大きい。なお、これはりんご園の圃場すみに植樹されていた早生のモモまたはスモモの樹で、周囲のりんごよりも前に結実したため、この樹が集中して被害を受けた。

撮影: 石川